

平成25年度 小学校からの教科専門性向上事業 実施報告書

教育委員会名

関市教育委員会

1 学力向上チャレンジ校名・責任者氏名

ふりがな	せきしりつさくらがおかしょうがっこう	ふりがな	やまだ しんご
学校名	関市立桜ヶ丘小学校	校長氏名	山田 真吾

2 取組内容

(1) 組織・指導体制に関わる取組内容

① 学年内の交換授業を越えた教科担任制の工夫

本年度の教員配置の実情を踏まえ、昨年度からさらに拡大して教科担任制を原則4年生以上で実施し、専門教科や得意分野の教師で授業を進めてきた。小学校の現状や職員の校務分掌、教科ごとの時間数と職員のもち時間等を踏まえた際、思うようにいかない部分も多々あるが、児童の学力向上を目的として、次のような意図をもとに職員を配置した。

25年度各学年の教科担任の状況

	担任の 免許教科	国語	社会	算数			理科	音楽	図画工作	家庭	体育	計
				チャレンジ	じっくり	じっくり						
4年1組	音楽	—	—	◎	—	—	—	◎	—	—	—	2
4年2組	社会	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	—	○	5
5年1組	理科	—	◎	研推長	—	—	◎	—	○	—	◎	5
5年2組	社会	—	◎	研推長	—	—	◎	◎	○	—	○	6
6年1組	理科	—	◎	—	○	◎	◎	○	◎	○	◎	8
6年2組	英語・技術家庭	—	◎	—	○	少	—	○	◎	◎	○	6
6年3組	算数	—	—	◎	○	少	◎	◎	◎	—	—	5

◎ 専門教科担任による授業      ○ 得意分野をもとにした教科担任による授業  
少 少人数加配（非常勤）による授業

※国語は教科のもち時間数が週5～7時間と多いため、それ以外の教科において実施。  
 ※教科担任を学年均等に位置付けることが困難な教科も、免許教科担任（得意分野）の職員が学年の教科指導をリードし、教材教具の共有や指導方法の工夫改善を提案したりするなどの連携を図る。

社会・・・4年2組を中免（社会）保有の学級担任が担当。（もち時間数の関係上2学級ともは困難。）  
 5年1組を中免（社会）保有の生徒指導主事（6年生学主）が担当、生徒指導主事が高学年全体を把握できるよう配置。5年2組は中免（社会）保有の学級担任が担当。6年1・2組を中免（社会）保有の教務主任が担当、もち時間数の関係上3学級すべては困難。

理科・・・5年1・2組を中免（理科）保有の1組担任が担当。  
 6年1・3組を中免（理科）保有の1組担任が担当

音楽・・・4年生1・2組を中免（音楽）保有の1組担任が担当  
 5年2組を中免（音楽）保有の講師が担当、学級担任が担当する1組に対して、学年音楽や担任への指導助言により共通理解を図る。  
 6年1・2組を得意分野の学級担任、3組を中免（音楽）保有の講師が担当。

図画工作・・・4年2組と6年生3学級を中免（美術）保有の講師が担当。4年1組は学級担任のため、講師と連携を図って指導法等を交流。5年生は2学級とも学級担任であるが、得意分野で指導力を発揮。

家庭科・・・6年1・2を得意分野の学級担任が担当。

体育・・・5年1組、6年1組を中免（体育）保有の研推長（5年生学主）が担当、4年1組、5年2組、6年2組をそれぞれ得意分野の学級担任が担当する。教科専門や得意分野の職員が入らない学級もあるが、各学年週2～3の体育の時間のうち、1時間は学年体育を行い、学年全体で共通の土台で指導ができるように配慮。

② 算数における習熟度別少人数指導の実施

算数では、個々の基礎学力や実態に応じた能力の向上を目指し、習熟度別の少人数指導を実施してきた。特に、低～下位層のボトムアップを図ることで、学力の二極化を防いでいきたいと考えた。

3年生では、各学級を「チャレンジ」「じっくり」の2コースに分けた指導を、4年生以上では、各



きた。算数における言語活動を「言葉のみではなく、具体物の操作、式、図、表、グラフ、数直線などに適切に表すことで、思考を表現するものである」と捉え、単位時間ごとの課題解決を図る手段として指導計画に位置付けることで、指導の系統性を明確にした取組を行ってきた。

### ③ 単位時間の役割を明確にする取組

指導事項を明らかにするために、既習内容や単元後の学習内容との関わり、同様に単元前後の言語活動における系統性を明らかにした。そして単元の目標や評価規準、言語活動も明確になり、バランスを考慮して評価の観点を位置付けることにより、「習得の場」「活用の場」どちらのスタンスで指導過程を工夫すべきかを明らかにした「単元指導計画」「単元構造図」を作成した。こうした単位時間ごとのつながりや関係性を明確にすることで、いつ・第何時までに・どんな力にこだわって指導・援助すべきか、具体的な手立てを明らかにすることにつながった。

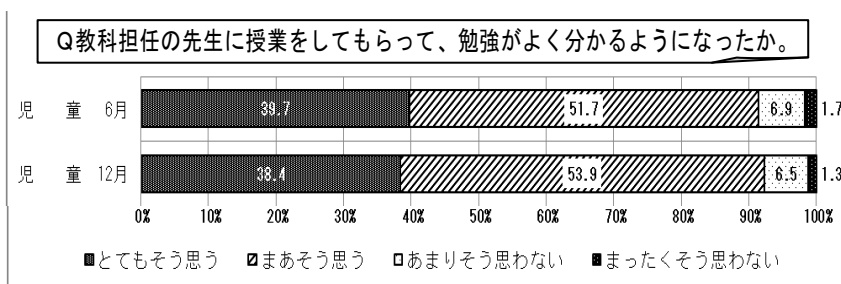
### ④ 算数の研究で学んだことを他教科に広げる取組

②③のような取組を他教科へも転移できるような実践に心がけた。授業公開の際の指導案には、算数以外の教科であっても校内研究の視点から授業づくりを捉え、「各教科の言語活動をどう捉え、授業の中でどう位置付けるのか、単元をどう構造化して指導に生かしていくのか」を明記し、指導に生かした。

## 3 成果

### (1) 児童の学習状況に関わる成果

教科担任制、習熟度別少人数指導を拡大したことで、授業に向かう児童の意欲に高まりが見られたり、下位層の児童の学習状況を改善することができたりした。



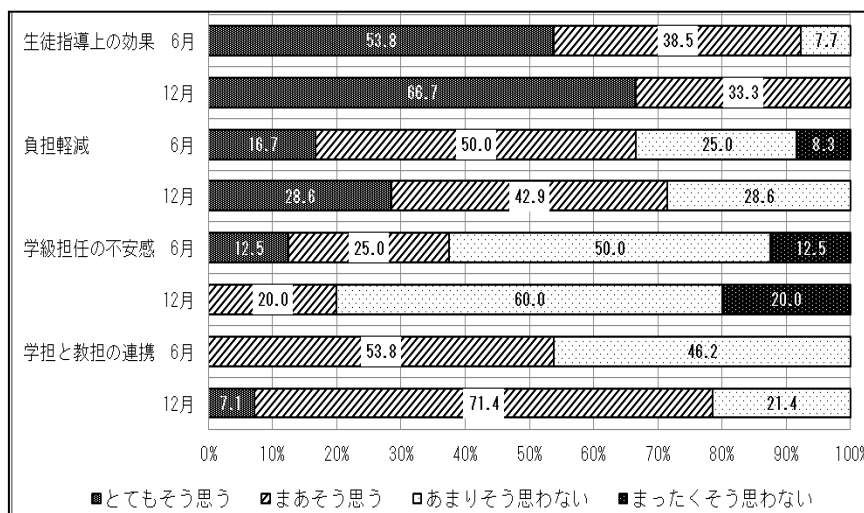
<児童アンケートの記述より一部抜粋>

- ・算数では、3つのコースに分かれているから、自分の力にあったところで学習できてとてもうれしい。
- ・教科担任の先生が違うことで、専門の先生が授業を教えてくれて、勉強ができるようになった気がします。
- ・授業であまり自分が話したり発言したりできなかったけれど、教科ごとで教えてもらえるようになり、しゃべれるようになってきた。
- ・図工などは、特別な技術がいろいろ教えてもらえるから、前より楽しく授業ができています。
- ・社会では実物をもってきてくれたり、詳しい内容まで教えてもらったりできるからとてもうれしい。

### (2) 教員の意識等に関わる成果

既存組織を活用した効果的な運用の工夫を図ったことで、学年会や研究学年部会、指導部会等で児童理解のための情報交流が活発に行われたり、指導方法の在り方を互いに学び合ったりして生徒指導上の効果や学習指導上の効果を上げることができた。特に、月1回全校一斉の学年会を位置付けたことで、適宜行われている各学年の打ち合わせと合わせ、活発に学年での交流ができるとともに、学年の足並みをそろえた指導がより確実に実践できるようになってきた。

「複数の学級を教えることを通して、教科の力を付けるために積極的に市教研に取り組んだ教師」「自身の教科の力量を伸ばそうと教材研究ノートをつくり、毎時間の教材研究を記録として残した教師」「先輩の指導法から学ぼうと進んで授業を参観したり、相談したりした若手教師」「専門教科の指導法を学ぼうと、本年度自身がもっていない教科の授業を進んで参観し、アドバイスをもらった教師」「自身が使う教材・教具を他の職員にも貸し



合う教師」など、意欲的な取組を積み重ねることができた。

<教師アンケートの記述より一部抜粋>

○子どもの指導を多数の先生が共通理解できたのはとてもよかった。学年間の子どもの交流がよくできた。

○自分の学級に対し、児童の意欲を引き出すような授業を実践してもらえるため、教科担任の授業の中で一生懸命学習している児童の姿を客観的に見ることができた。

○子どもの教師を見る目が、専門の先生というものになり、「教科担任の先生にほめてもらえた」という言葉があるなど、学ぶ喜びが増しているように感じた。

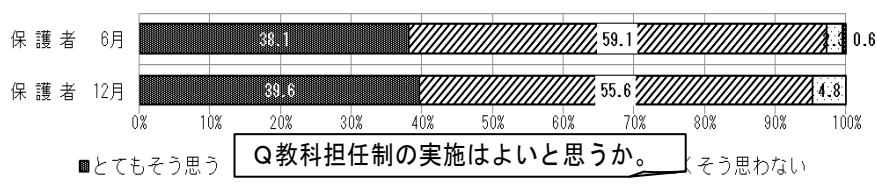
○態度が乱れてよく担任から注意を受ける児童が、他の教科担任からも同じように注意を受け、やはりこうした“人が変わっても同じ指導を受ける”→“客観視できる”というメリットがある。懇談会でも教科担任が同席することで、授業中の様子について保護者に伝えることができた。

### (3) 保護者の意識等に関わる成果

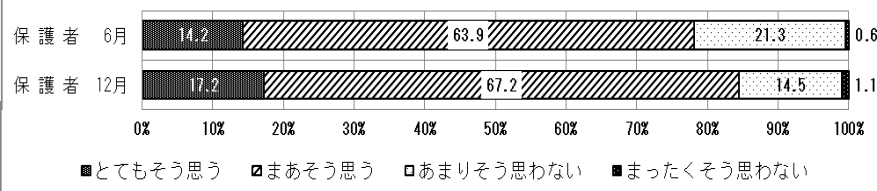
専門性を効果的に活用する指導体制を工夫したことで、保護者の教科担任制授業への興味・関心を高めた。また、児童の学習意欲の高まりを保護者自身が実感することができた。

特に、保護者アンケートでは教科担任制への必要感を数値からだけでなく、他のアンケート調査以上に熱心な記述や、自身の教育に対する願いが多く見られたことから、こうした保護者の思いを受け、学校が児童の学力向上のためによりよい実践を重ねる必要性を感じた。

教科担任制授業への興味・関心



Q教科担任制の授業で、お子さんの学習意欲は高まったと思いますか。



<保護者アンケートの記述より一部抜粋>

・ 中学年で教科担任制はどうと子どもに聞いてみました。「分かりやすく楽しい」と言っていました。だから授業に対して取組も違ってくると思うので、いいと思っています。これからも続けて欲しいです。

・ 教科内容の面からすると、子どもたちは専門の技術指導や知識を身に付けることにとても喜びを感じているようです。実際能力も向上したように思います。

・ 他の先生と関わることでコミュニケーションが生まれるし、違った目線で子どもの様子も発見できると思う。不登校になりそうな時も他の先生が関わっていることで諭しやすかったり、当人も安心したりと柔軟な人間を育てるにはより他の先生でもよいと思います。

## 4 次年度以降の見通し

### (1) 基本的な立場

① 発達の段階に応じた専門的な教科指導を充実することにより、児童の学力向上を図る。

### (2) 実践内容

① 「小学校における教科専門性の向上」を踏まえた研究主題を位置付け、これまでの算数に特化した研究実践から、複数教科における質の高い教科指導を実現するための研究実践に移行する。

② 児童の発達の段階に応じて、習熟度別少人数指導や教科担任制を効果的に位置付け取り組む。

### (3) 具体的方途

#### ① 指導体制の工夫

- ・ 学年内の交換授業を越えた教科担任制の在り方
- ・ 習熟度別少人数指導とTTによる指導等の活用の在り方
- ・ 学年会や学年研究部会、教科部会の在り方と組織化

#### ② 指導方法の工夫

- ・ 発達の段階に応じた指導方法の改善
- ・ 教材、教具の開発と活用